一般研究発表｜5月18日(土)｜①10:00-12:00、②13:00-13:40　首都大学東京 6号館　　※タイムテーブル最新版は学会ウェブサイトで確認してください。

	第1会場 6-213	第2会場 6-212	第3会場 6-211	第4会場 6-210	第5会場 6-209	第6会場 6-313	第7会場 6-312	第8会場 6-311	第9会場 6-310	第10会場 6-309
10:00-10:40	『アルキビアデス第一』における自己認識の構造	スピノザ『エチカ』における「関係」としての個体	直観についてのベルクソンの理論の発展	美しさの裏面にある醜さ ――『判断力批判』における「醜さの美学」	ハイデガーにおける存在時性の問題と「西洋哲学の原初」講義（１９３２年夏学期）の意義	ホッブズは自らの哲学方法論から形相因を放逐したのか	スタウトの心理学とムーアの倫理学	国際正義と人権		和辻哲郎とマックス・シェーラーの倫理学の比較研究
	稲津阿育	立花達也	野瀬彰子	高木駿	上田圭委子	後藤大輔	伊藤遼	鈴木岳		横山陸
司会	土橋茂樹	鈴木泉	村山達也	中野裕考	佐々木一也	久米暁	萬屋博喜	福間聡		宮野真生子
10:40-11:20	善き人と完全な弁論家ーキケロ『弁論家について』第3巻を中心に	個物の認識：スピノザにおける数学的決定論と直観知	20世紀前半の芸術批評における身体性と有用性	カント哲学における「非存在言明」の可能性について：「真とみなすこと」の論理分析をてがかりに	ハイデガー的形而上学的論理学の可能性について	信念の現象性は真理を目指すのか ヒュームにおける信念と動機について	MIndとは何か？ デューイの形而上学をめぐって	科学技術イノベーションにおける道徳的想像力の役割―RRI（責任ある研究とイノベーション）との関連において	自己と自我についての考察	
	安田将	柴田健志	川里卓	繁田歩	山下智弘	岡村太郎	長谷瑞光	古賀高雄	亀山陽司	
司会	加藤和哉	鈴木泉	村山達也	城戸淳	佐々木一也	萬屋博喜	稲村一隆	福間聡	中真生	
11:20-12:00	プルタルコスにおける動物の徳倫理：徳理論における「プロアイレシス」の概念	ストア的であるのとは別の仕方で ――スピノザ『エチカ』第4部付録第32項の問題	後期ライプニッツにおけるモナドの支配ー従属関係について	ハイデガーにおける行為の哲学	マルティン・ハイデガーにおける無と根拠の問題について	緋色の印象の生成――ヒューム知覚論の構成的契機	二人の依存症者：道徳的責任の理由反応性説を擁護する	情報圏倫理の基礎と実装について	類似の感情を脱神話化する	純粋経験の体系性
	中村健	笠松和也	三浦隼暉	高井寛	加藤皓士	豊川祥隆	井保和也	細川雄一郎	原健一	佐野之人
司会	上枝美典	津崎良典	池田真治	植村玄輝	美濃部仁	植原亮	鈴木真	森下直貴	中真生	津田雅夫
13:00-13:40	プロティノスがこの世界の永遠性を強調することの意義について	演繹、論証と説明ーデカルト哲学の体系の一考察		ハイデガーと他動詞性	ハイデガーにおける「現在」概念の問題		行為・行為者・行為者性	民主主義へのジェファソン的「信仰」： 近代アメリカの「過大な期待」と、プラグマティズムの切迫した楽観主義	一人称に確実性があると言うことはいかなることか？	
	豊田泰淳	佐藤真人		小田切建太郎	森正樹		川瀬和也	谷川嘉浩	槇野沙央理	
司会	辻内宣博	津崎良典		石原孝二	池田喬		吉原雅子	森下直貴	大谷弘	

＊発表25分／質疑15分を目安とする.

公募ワークショップ｜5月19日（日）9:15-11:45

タイトル	政治哲学の公共性と秘教性：スピノザ主義的啓蒙とその周辺	政治的な事柄を〈いま〉哲学するということ：アリストテレス『政治学』を再読する意義の検討を手がかりとして	ゲノム編集をめぐる倫理規範の構築を目指して ー科学技術イノベーションと人間の尊厳	Reasoning論の哲学的新展開 ― 生命・心・法をめぐって
登壇者	上野大樹・齋藤拓也・馬場智一・近藤和貴	立花幸司・相澤康隆・稲村一隆 福間聡・玉手慎太郎	田坂さつき・島薗進・香川知晶・横山広美	岡本賢吾・太田雅子・木本周平・西村友海
会場	6号館 210	6号館 211	6号館 212	6号館 213